

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

もっと知りたい！／学校法人勝田学園 大成幼稚園（埼玉県）

子どもたちがダンゴムシに夢中になる姿は、多くの園で見られます。ダンゴムシに繰り返し関わる過程では、子ども同士のやりとりが自然に生まれ、発見や情報を共有することと同時に、新たな言葉や知識を獲得している姿を見取ることができます。

今回は子ども同士の言葉のやりとりから、「科学する心」が育まれる体験を読み取ることのできる実践をご紹介します。



○ダンゴムシ～子どもの言葉～／4歳児

✦ 事例1 ダンゴムシを見付ける（6月中旬）

男女5人が園庭の隅に行き、玩具のかごや植木鉢を動かしたり落ち葉の下を覗き込んだりして、夢中になってダンゴムシを探す。見つけたダンゴムシは捕まえて、砂場用の容器に入れる。そして、「お部屋に持って行って飼う！」と言い、そのまま砂場の容器に入れて保育室に持ち帰る。

保育者の援助

ダンゴムシに興味をもって関わっている子どもたちが、自分たちで話し合い、考えたり疑問をもったりしている姿を見守る。

- 「明日のお外遊びの時に家を作ってあげよう」と言い、ロッカーの上にそのまま置いておく。

子どもの姿

翌日、ダンゴムシを見に行った子どもたちは、何匹かのダンゴムシがカラカラに乾き、動かないことに気付く。

心が動く体験

子どもの言葉

「ダンゴムシが動かないよ。死んじゃった」
「丸まって寝ているだけだよ」
「違うよ！暑いから動かないんだよ」
「じゃあ水を入れたらいい」

- 子どもたち同士で話し合い、残っているダンゴムシが入っている容器に水深3センチほどの水を入れる。

子どもの姿

翌日、動かないダンゴムシを見た子どもたちは、「水をあげたのに死んでしまった？あれっ？」と、疑問に思う。

考える力

心が動く体験

子どもの言葉

「水をあげたのに死んじゃったよ？」
「水入れすぎたのかな？」
「濡れちゃったんだね…」

✦ 事例2 黄色い点々があるダンゴムシを見付ける（6月中旬）

連日、夢中になってダンゴムシを探しているのでダンゴムシの数が増える。

● 色や大きさが様々なダンゴムシを見付け、捕まえる。

子どもの姿

同じような黒や茶色であっても、見比べることができ、その中から模様のあるダンゴムシを見付ける。

考える力



子どもの言葉

「またお部屋で飼う！」
「今度は死なないようにしなきゃね」
「ね！これ黄色い点々がある」
「何でだろう…？」
「黄色い点々があるダンゴムシは毒があるダンゴ虫だから一緒にしない方がいい！」
「違うよ！！」（言い合う）

保育者の援助

子どもたちは点々について言い合う。保育者は「そうなんだー」と、子どもの話を否定せずに共感する。「いろいろなダンゴムシがいるから、毒かどうかを確かめるために一度部屋に持ち帰ってみよう」と声をかける。ダンゴムシの絵本や図鑑を置き、子どもたちが調べやすい環境を整える。

● 違いに気づき調べる

子どもの姿

図鑑やダンゴムシの本を見て調べる。

探究心



子どもの言葉

「黄色い点々はメスだって！女の子だよ！」
「毒じゃなかったから一緒に大丈夫だね」

● 棲み処に興味をもち、ダンゴムシの家を作る

子どもの姿

同時にダンゴムシの飼い方を本で見て知る。飼育ケースに砂場の砂を入れ、葉っぱ（緑色の葉と枯葉）や石を入れる。

自ら作り出す喜び

考える力

子どもの言葉

「ダンゴムシがいた所と同じようにすればいいんだね」
「今度は死なないようにしよう」
「大きくて硬い葉っぱのほうが食べるんだよ」
「なんで石を入れるんだろう…？」

保育者の援助

ダンゴムシのお家はどうか？と子どもたちに問いかけて子どもたちに寄り添い、飼育ケースを用意して、見つけたダンゴムシの環境作りを援助する。子どものやりとりを聞いて見守る。

● 観察・感動：ダンゴムシの赤ちゃん

子どもの姿

折々に飼育箱を見て、ダンゴムシを観察する。赤ちゃんを発見する。

心が動く体験

考える力



共感し合う友達

子どもの言葉

「ダンゴムシのお家に小さな虫がいるよ」
「黄色いがある」「どれどれ？」と次々に覗き込む。
「ほんとだ」
「何だろう」
「ごみ？」
「違うよ。ダンゴムシの赤ちゃんだ！」
「すごく小さいね！！」

● 観察・発見：脱皮

子どもの姿

白いものを見つけて、手に取って観る。脱皮を知る。

共感し合う友達

考える力

心が動く体験

子どもの言葉

「この白いのは何？」
「ダンゴムシが白くなったやつみたい。足があるよ。ダンゴムシと同じ形」
「脱皮したんじゃないの？」
「脱皮って、きつくなった洋服脱ぐことなんだよ」
(『脱皮』という言葉を知っている子どもが話始める)
「お着替えしたんだよ」
「ダンゴムシさんの洋服だ」

✦ 考察

子どもの体験：「心が動く体験」「探究心」「考える力」

今までの子どもたちの姿を見ているとダンゴムシを集めて遊ぶことを楽しみ、自分たちで飼って育ててみるということには繋がらなかった。しかし今回ある子どもが「お部屋に持って帰る」と言ったことから保育室で飼うことになる。保育室で飼ったことで、今まで以上にダンゴムシを目の前でじっくりと見ることができ、気に掛ける子どもが多くなり関心が強まった。興味をもった子どもたちは、覗き込んだり手に取り、毎朝、飽きることなく様子を見ていた。

最初のダンゴムシを飼育する際、「水を入れたらいい」と知っている子どもがいたので水を入れてみたが、量は考えず、最初のような結果になる。子どもたちは「死んでしまった」という状況により**心が動く体験**をした。そして、どうして死んでしまったのかを考えることにより**探究心**が引き出されて、話し合ったり調べて伝え合ったりする姿に繋がっている。

子どもたちがやりとりをしている言葉に注目することで、次はどうしたらよいかを自分たちで考えたり、気付きや疑問を友達と伝え合ったりしている姿を捉え、**考える力**が育まれていることを読み取ることに結び付いた。